

算数通信 テーマ：多様な学習形態の一つ「個別学習」とは

本事業の研究推進リーダーを行わせていただいている私は、課題である「算数科の楽しさを味わう授業のあり方」と「個別最適な学びのあり方」の両面で、本事業に取り組んでいます。「算数科の授業を楽しく感じ」かつ、「指導の個別化」と「学習の個性化」を同時に叶えさせる授業のあり方とは・・・。

その際、理論と実践の両面で拠り所としたのは、加固 希支男（東京学芸大学付属小学校）を中心とした先生方の実践でした。

本町では、現在「個別最適な学び」の学習形態として「自由進度学習」を中心に実践が進みつつありますが、加固氏の実践は「個別学習」です。

本号は、加固氏の実践から学んだ「個別学習」について紹介していきます。

授業改善の参考としてくださったら幸いです。

まず、大前提

教科教育において必要なことは、見方・考え方を働かせることです。だから、算数科の目標は、「数学的な見方・考え方を働かせて、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育てる」になっています。重要なことは、

●まずは、「数学的な見方を働かせる授業を行う」ことです。

●次に、「数学的に考える資質・能力を育てる」とは・・・

『答えが合っていればいい』という学習観を持っている多くの子供を、『どうしてそうなるか』の理由を発言できる子供に育てるということです。テストで点が取れることを、算数科の目標のすべてには置かない。」ということになります。

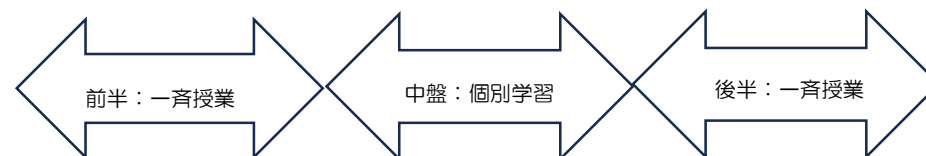
ここから「個別学習」の紹介

○一斉授業と個別学習を組み合わせた単元構成になります。

・一斉授業では、学級全体で数学的活動をさせ、その後の学習で使う知識・技能や働かせたい数学的な見方・考え方を共有します。

・個別学習は、身に付けた知識・技能や数学的な見方・考え方を働かせて、子供が学習方法や学習内容を選択しながら、新しい知識を創り出す学習を行います。

○このように一斉授業と個別学習の役割を考え、次のようなモデルを考えています。



○1 単位時間の個別学習に、「指導の個別化」と「学習の個性化」の要素を入れます。1 単位時間を3つに分け、前半20分程度を「指導の個別化」、後半の20分程度を「学習の個性化」、振り返りを5分程度とします。後半では、活用問題に取り組んだり、単元を通して働かせた重要な数学的な見方についてまとめたりします。

○【個別学習】の展開例

◆前半（20分程度）	◆後半（20分程度）	◆振り返り（5分程度）
①問題を解く	教科書の問題を発展させる	
②まわりの人と共有する	・数を変える	
③大事な考えを投稿する	・数の個数を変える	
	・場面を変える	

○一斉授業と個別学習を組み合わせた単元計画例 6年「比」

第1時	比と比の値（一斉授業）
第2時	等しい比の性質（一斉授業）
第3・4時	等しい比の性質の活用（個別学習）
第5時	第3・4時の振り返り（一斉授業）
第6・7時	比例配分（個別学習で行い、第7時後半で一斉授業）